

おいしい書館 No. 35

シンポジウム

私たちの望む

松戸の新しい

図書館

十一月三日(土)・女性センターにおいて、「おいしい図書館」の主催でシンポジウムを開催しました。広報紙で市民に呼びかけたところ、男性、女性、年齢層も幅広い参加者があり、地域に生きる図書館について様々な意見、希望が述べられ、皆さんの図書館に対する期待の大きさをあらためて実感させられました。三人の発言者の心にしみる発言と、参加

した方々の貴重なご意見をまとめて、報告書として、市長・教育長・議員の方たちに提出しました。

わの会

中村美津枝

さん

「わの会」はどんな障害を持っていようとも、自分の生きたい地域で生きて行けるような世の中にならなければと活動を始めて十三年位経ちました。

松戸市の障害者に対する図書サービスは、詭みたい本があった場合、電話すると移動図書館が宅配してくれます。視覚障害者のための朗読図書は矢切の総合福祉センターにあり、テープを送ってくれます。そういうものが、なぜ普通の図書館にないのぞい

うか。テープをお願いしても郵送されるだけで、人と人との出会いがなく、それを地域の図書館でやってくれたらうれいはず。障害者はなかなか友達を作りにくい、図書館で本の話題から友達ができるのではないでしようか。色々な状況の人が、来たい時に来られるような、コミュニケーションのとれる場として図書館があつたら理想的だと思ひます。母親の立場から考えると、教科書などに載せないような日本の歴史等をきちんと知らせるような本をたくさん置いて、色々な視野から見て判断できるようななればよいと思ひます。



ときわ幼稚園

森口優子^{せん}

せん

幼稚園は昭和三十六年、湯盤平
 圃地が出来た時にスタートし、七
 年後に図書館を建てました。園
 の創立者が図書館にするか室に
 するか非常にこだわり、ただ本
 がある、保存されているに止ど
 まるのでなく、そこから働きか
 けがある物という形の「図書館」
 にしました。そこが子ども達や
 保育者の「魂のふるさと」になつて
 ほしいと情熱を傾けました。
 木の床、手作り椅子・テーブル、
 作りつけ書架、布の壁紙、窓か
 らしよぶ公園の四季折々の風景
 がすばらしいです。本の種類は
 圧倒的に絵本が多く、児童書、
 大人向け等三千余冊揃っています。

各クラスの利用日が決っていて、
 前日に念入りに用意します。子
 どもは個性があり、興味も違つ
 のど一人一人子どもの顔を思い
 浮かべ、表紙が見えるように並べ
 ます。入ってきた瞬間に子ども
 の目がものすごく輝きます。

子どもが読みたい本がある場
 合、そこに立ち合う大人が子供
 の本についてかなり知らないと
 子供の要求に応えられませんが
 それと普段の生活に密接にかか
 わっていないと、その子の要求
 する本が手渡せないです。もう
 一つ、普段子供が本の世界に入
 っている習慣があるかどうか
 ということです。私達は、お母
 さんに情報を提供したり、読み
 聞かせなどについて話し合いを
 続けていきます。

子供達それぞれその子なりの
 図書館との過ごし方があり、そ

れぞれの充実した時間が持てる
 かが要です。本の中で充分に旅
 をして、本の世界を思う存分遊
 べる時間が過ごせるように、図
 書館の役割は、大人がどうい
 う本に出会わせてあげられるか、
 その時の学習、大人の側の質が
 問われます。ただ本が読める
 のではなく、どれだけ質のよい
 本が手に入れられるかです。將
 来的に図書館を担っていくのは
 子供、子供が本を好きになるに
 はどうしたら良いか考えてほし
 いです。子供が本を好きになつ



てくれ
 ること
 が一番
 大事な
 ことで
 す。

松戸の福祉を考える会

伊藤和子さん

本が好きで本がなくては一日もいられません。娘は希盤平でぐりぐら文庫をやっています。先日浦安図書館見学に行きましたが、とにかくすごい！障害者の人が車椅子でも行けるように段差が全くないのに感心しました。窓の外は緑、一日中ゆくり本を読んで過ごせそうです。館長さんの公立図書館はどういう姿が良いかという話に感動、ポリシーの高さを感じました。松戸は事情が違うが、理想的な物を作ってほしいと市民の側から運動していくことは非常に大事です。設立準備委員会を是非作ってほしいです。

探索機を置いて、来館者が自

分ぞ検索するのは利用しやすいです。浦安図書館のような「何んでも聞ける」案内所はとても良かったです。

松戸はアルバイトの人が多くと聞くが、市民センター等の窓口と図書館とは本質的に違います。本の貸借や、建物だけでなく、務めている人、司書の質の高さが大切です。

参加者の声



障害者へのサービス

○矢切の点字図書館は、一般の図書館のように乗しみながら選べる所ではありません。ノーマライゼーションの考え方に添って、図書館と一緒にするべきです。

○点字を打つ機械がありますが、点字の約束事を考えれば、専門の人を置いてほしいです。

○相模台に図書館を考える場合、駅など、エレベーターの設置を考えてほしいです。

○図書館利用は、障害者だけでなく、高令者・子供も含めて考えてほしいです。

子どもたちへのサービス

○市川市は子供を大切に考え、学校図書館に司書教諭を置いています。不登校の子と、好きな子がたくさんいます。そういう子が行きやすいようなあたたかい図書館を望みます。

○複本をたくさん揃えて、表紙が見えるように並べて下さい。分館の椅子が少ないので、子

供に本を誦んであげられず、内容がよくわからずに借りてきてしまいます。ゆっくり本が選べるスペースがほしいです。

全般への提案

- ・色々な図書館をよく利用しますが、松戸は建物、蔵書、館員の資質も含めて不十分です。
- ・生涯教育の中核なのに、なごりにされていきます。
- ・美術館や文学館もいっしょに造ってほしいです。
- ・国会図書館に勤務しています。国会図書館でなくともよい申込みが多く、雑誌のカウニタも混んでいきます。松戸市民が松戸で、調べ物や研究にふえられるような図書館があるとよいと思います。

・図書館員に本の題名を言って探してもらおうより、自分ご提案できる検索機を置いてほしいです。それがだめならカードを置くべきです。

・分館については身近に本を感じられ、数が多いことは評価できます。分館に特色を持たせてはどうでしょうか。

・佐賀市立図書館のように声を出してもらうさくない図書館の建て方はとても良いと思いました。話をしながら本を選べば楽しいことです。

・中央図書館をつくる運動をしている会のことを知らない人

中央図書館建設へむけて



が多いと思うので、活動の内容を広く知らせてほしいです。地方紙や広報などマスコミに載せて、市民が注目できるようにしてほしいです。

・相模台の大蔵省跡地を聖徳短大にするか、松戸市にするかは選考委員会と決めると聞いたが、内容を情報公開して、見つけられることが大事ではないでしょうか。

・色々な角度から提案を出し続け、のろい歩みでもくりかえしていくことが必要だと思います。

お一人お一人の熱心なご意見に感謝しました。ありがとうございました。(磯村)

発行「おーい図書館」
連絡先 青木和子

松戸市総合ハニョーエ